

## 国際私法学会理事会：議事録

- 日時：2023年11月4日 20:00～
- 場所・方法：オンライン会議システム（zoom）による理事会

出席者：

理事：青木清、織田有基子、神前禎、北澤安紀、国友明彦、嶋拓哉、  
高杉直、多田望、道垣内正人、長田真里、中西康、檜崎みどり、  
西谷祐子、早川眞一郎、林貴美、横溝大(以上、16名)  
監事：佐野寛、中野俊一郎(以上、2名)  
欠席：河野俊行、出口耕白(以上、2名)  
議事録作成補助のため、理事長補佐（種村佑介）が陪席。

**議題：**

### 【報告事項】

#### 1. 第137回（2024年度）研究大会の研究企画に関する件

西谷祐子研究企画主任より、①2024年年6月8・9日に予定されている研究大会について、個別報告の公募を行った結果、1名から応募があり、審査の結果、付帯意見を付したうえで報告を認めたこと、②9日午後のシンポジウムは移民と国際私法をテーマとし、2名のゲスト報告者を予定している旨、報告があった。

#### 2. 国際私法年報の英文サマリーのホームページ公開

中西康ホームページ運営主任より、国際私法学会の活動を国際的に広報するため、刊行当初からの国際私法年報の英文サマリー部分を学会英文ページにPDFで公開すること、そのための作業に取り組む旨、報告があった。

### 【審議事項】

#### 1. 国際私法年報に関する制度見直しに関する件

嶋拓哉年報編集主任・北澤安紀年報編集委員会アドバイザーより、国際私法年報に関する制度の見直し、特に、国際私法年報を発刊することに相当額の赤字が生じている信山社に対して支払う「ページ単価」の計算方法について、現行（和文ページは単価3,900円、欧文ページは単価3,500円）

から「5,500円」程度まで引き上げたい旨の提案があった。これに対しては、出版社が赤字を負担する状況は健全でないなどの意見が出され、異議なく了承された。

続いて林貴美会計主任より、国際私法学会会計収支の概況について補足的に説明があった。特に、上記の国際私法年報に関する制度見直しも考慮すると、今後は学会会計収支に単年度あたり60万円～100万円程度の赤字の発生が見込まれることから、早川眞一郎理事長より、将来の課題として、会費の値上げや紙媒体での出版形態を見直す等、単年度に赤字にならないような方策を引き続き検討していく旨、申し添えられた。

## 2. 第137回（2024年度）研究大会のシンポジウムにおけるゲスト報告者への旅費支出

西谷研究企画主任より、報告事項1に関連して、非会員のゲスト報告者2名について当学会から旅費（交通費・宿泊費）を支出する旨、提案があり、異議なく了承された。

あわせて早川理事長より、2025年度大会以降は学会の恒常的な制度としての「ゲスト報告者制度（研究大会ごとに、他分野のゲスト報告者について学会から旅費を支出する制度）」の創設を目指して検討を進める方針である旨の提案があり、こちらも異議なく了承された。

## 3. 新入会会員承認の総会提出（会員の異動に関する件）

早川理事長より、以下の2名の入会希望者（2023年11月1日時点）の入会を総会に提案することについて説明があり、異議なく了承された。

小林幹雄、高橋一章

## 4. その他（今後の理事会・総会に関する件）

早川理事長より、研究大会前の5月中旬に理事会をオンライン会議システム（zoom）で行うこと、議事は、①2023年度事業報告（研究企画、年報編集、ホームページ運営、研究大会設営）および決算報告の総会提出、②2024年度事業計画（同上）および予算案の総会提出、③会員の異動（新入会員承認の総会提出、会費滞納者の資格喪失の承認）を予定している旨の提案があり、異議なく了承された。

あわせて、6月8日（研究大会1日目）のお昼に理事会を、夕方に総会を対面により行う旨、提案があり、こちらも異議なく了承された。

以上のとおり、間違いありません。

2023年11月5日

議事録作成者（理事長）

早川 真一郎



議事録署名人

横井 大

